

日本語母語話者と日本語非母語話者の会話における 日本語非母語話者へのフィードバック —会話における repair の相互作用をめぐって—

永山友子

キーワード：非母語話者、フィードバック、repair、ネガティブ・フィードバック、
NNS への働きかけ

1 はじめに：研究の目的

日本語非母語話者（以下、NNS）にとって、日本語母語話者（以下、NS）との会話は、実際にコミュニケーションを行いながら、コミュニケーションの図り方を学んでいく機会となる。確かに教室談話においては、NNS の発話に対する NS のフィードバックが、談話の構造に組み込まれている(Coulthard, 1985)。しかし、教室を離れた会話は、取り立ててことばの教育を目的とはしていない。では、日常の会話において、NNS はどのようにして、自らの発話が適切であるか否かに気付いていくのであろうか。あるいは、NNS が適不適に気付かないままに、NS と NNS の会話は終わっていくのであろうか。

このような問題に対する答えを見いだすために、本稿は NS/NNS 間の自然な会話において発話が交換されていく過程を分析する。特に、NNS の言語行動にトラブルが認められたときに NS が NNS へ与えているフィードバックに注目する。言語行動のトラブルに対処するフィードバックは、コミュニケーションの破綻の修復を目的とする repair の相互作用（永山、1995、1996）の一部としても捉えられよう。

2 分析の観点と会話資料

2-1 発話連鎖としての会話

会話の分析は、談話を文を超えた言語構造の単位として考える立場と、会話は社会行動であるという観点から相互作用分析を行う立場に大きく分かれる。本稿は、後者寄りのアプローチを取り、会話は発話の連鎖であると考え。個々の発話は、先行する発話を踏まえて行われて、後続する発話に影響を与えていく。言い換えると、会話者 B は、会話者 A の発話を B なりに理解した上で、B の発話を行う。続いて A も、B が自分の発話をどのよ

うに理解しているかを踏まえて発話を行っていく。

しかしながら、会話が進んでいく中で、Aの発話がAの期待通りにBに理解されていないとAが判断する場合もあるものと推測される。また、BがAの発話を理解できなくて、Aに明確化要求を行ってくることもあると考えられる。そのようなとき、Bの理解のトラブルを解消するための発話交換(=repairの相互作用)が行われることがある。自分の期待に沿わない相手の発話や、自分が理解できない相手の発話に対してネガティブ・フィードバック(Oliver, 1995; 町田, 1996)を与えることは、他者としてrepairを主導する手立てとして機能する。その一方で、A自身がことばに詰まってしまったり、使ったことばに自信が持てない場合に、Bに働きかけることで自己主導のrepairを開始することもある。

2-2 定義：フェイスワーク(facework)¹

会話は、会話者同士が向き合う相互作用である。会話者は、情報交換を行うだけではなく、互いの社会関係を考慮しながら会話を進めていく。「人々が自己について、また他者に関して主張する、社会的に状況付けられたアイデンティティ」(Tracy, 1990)は、フェイス(face)¹と呼ばれる。フェイスは、ポジティブ・フェイス(positive face)とネガティブ・フェイス(negative face)に分けられている。前者は、他者から肯定的に受け入れられること、後者は、他者から干渉を受けないことに重点を置いている。NNSの発話に対してNSがフィードバックを行うと、NSはNNSの行為に干渉することになり、NNSのネガティブ・フェイスは脅かされる。また、NNSのフェイスを脅かすことで、NSのポジティブ・フェイスも逆に脅かされる。NSがNNSに与えるフィードバックには、NNSに発話の適不適を気付かせるだけではなく、NSとNNS双方のフェイスの兼ね合いを計るというフェイスワーク(facework)の影響も及んでいるものと予想される。

2-3 会話資料

本稿で分析対象とする会話資料は、筑波大学大学院における1995年度日本語教授法研究ゼミの参加者11名が収集し、テープ録音した日常の自然な会話である。会話総数は57(対面会話15:電話会話42、NS/NNSの会話44:NNS/NNSの会話13)であり、録音総時間は約4時間26分となっている。本稿では、NS/NNSの会話のみ(3時間27分)を分析対象とする。会話の話題は、入学願書提出手続きに関する電話での問い合わせを除けば、特に話題が指定されていない友人同士のおしゃべりである。録音者名とデータ番号、及び会話者に関する情報は、引用箇所に付記した。表記法については、原則として収集者による表記を尊重し、引用者による表記の統一はしていない。個々の発話の冒頭には、通し番

号及び発話者のイニシャルを付した。repairが行われていると見られる発話交換は、罫線記号（┌└）で括ってある。repair中の発話の右寄りには、その発話が行っている相手への働きかけを、太字の括弧（【 】）で括って記した。一つのターン内で、複数の働きかけが続いて行われている場合には、それぞれの働きかけをプラス記号（+）で区切って記した。一つの発話が複数の働きかけを行っているとされる場合には、それぞれの働きかけを中黒（・）で区切って記した。句点（。）及び読点（、）は、個々の発話の終わりを示す。句点と読点の区別はしていない。疑問符（？）は、上昇調のイントネーションを示す。その他、表記に用いた記号は、以下の通りである。

// 発話の重複の開始（重複している発話は、位置を合わせてある）；= 間髪を入れずに、すぐ先行発話に続いている発話；(*.*) ポーズの秒数；

_____ repairの相互作用におけるNSの発話；_____ repairの相互作用におけるNNSの発話；_____ NNSの発話にトラブルが見られたが、NSに取り上げられなかったもの

3 日本語母語話者が日本語非母語話者に与えているフィードバックの分析

以下では、NNSの発話が起点となったrepairを、NNS主導型とNS主導型に分類する。そして、repairの過程でNSがNNSに与えているフィードバックを分析する。

3-1 日本語非母語話者主導型のrepair

NNS主導型のrepairには、NNSが自分の言いたいことを表現できるような発話を産出できないときにNSに働きかけている場合と、NNSがNSの発話を十分に理解できないときに明確化を求めてNSに働きかけている場合が認められた。

3-1-1 NNSが発話を産出できない場合

(1)は、友人同士の電話での会話である。NNSであるEは、NSのSと話をしている途中で、進行中の会話を録音する許可をSから得ようとしている。

(1)E：ブラジル人男性、24歳、日本語中級 || S：日本人女性、20代

270E：ええとね//ええと友人は//えとあのー今はあの研究してるんですけど

271S： うん うん

┌┌ 272E： //その友人は //留学生のはな、電話はなしを勉強したいから//れく

|| 273S： うんうんうん うん うんうん

|| 272E： おんしてもいいですか、あのー私たちの話//れくおん、ろ//く、ろく

- || 【repair : くり返し+言い換え】
- || 274S : うんう? ろくおん
- || 【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (漠然) + 言い換え】
- └ 272E : おん、ろくおん、録音、to, to tape our conversation? (一) いいです
か? 【repair : くり返し+言い換え・S の理解の確認】
- └ 275S : ろくおん? ろくおん?
【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (くり返し)】
- └ 276E : ろくおん。 【repair : くり返し】
(略)
- └ 280E : してもいいですか? 【272E の部分的なくり返し】
- └ 281S : うん、えー? なんの話を?
【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (疑問詞)】
- └ 282E : ん、普通の話//私たちの話、今の話は//れくおんしてもいいですか?
【repair : 272E のくり返し】
- 283S : うん うん 【相づち】
- 284S : いいです。 (Ruth 6)

272E で、E は「ろくおん」という語の発音につまずいている (「れくおん」)。聞き手である S は、自分にターンが渡されるのを待たずに、「うんう?」と明確化を求めた(274S)。(ここまでの展開は、E の不明瞭な発音に対して S が明確化を求めている NS 主導型である。) それを受けて、E は、「ろく」と言いかけるが(272E)、更に S が発話を重複させて「ろくおん」と言い換える(274S)。E と S の間でターンは行き来していないものの、272E/273S-274S では、S の発話が E の発話にかぶさって repair が行われているとも言えよう。その結果 272E の後半に「ろくおん」という発音が入り入れられるのであるが、E はやはり確信が持てないらしく、「ろくおん」をくり返して、次いで英語にも言い換えて S の理解を確認している。272E から 280E まで続く repair は、E(NNS)が S(NS)に問いかける NNS 主導型となっている。一方、S は 275S で初めてターンを取り、「ろくおん」をくり返して再び明確化要求を行った。そして、276E は、「ろくおん」をもう一度くり返している。ところが、repair が終了した後の 282E にも、E(NNS)の発話に再び「れくおん」が現れた。けれども、S は 282E を新たな repair の起点とはせず、そのまま会話を続けている。既に E の発話に「ろくおん」という語が現れてきており、S の理解が成立している

ためであろうか。

(2)でも、NNSのPが自分が言いたいことを表現できる形式が見つからないでいる。NNSのPとNSのQが、最新式の洗濯機が持つ機能について話をしている場面である。親しい者同士の会話の中で、Pが「布巾」という語が分からなかったために **repair** が始まった。

(2)P：韓国人女性、27歳、大学の研究生、日本語上級 || Q：日本人女性、43歳、主婦

┌ 129P：なんか、あの一、(2.0) 台所で使//う一 【ことば探し開始】

| 130Q： うん 【相づち】

| 131P：(1.5) う一、なんというか、なんか 【ことば探し】

| 132Q：(0.5) 食器洗うの一？ 【フィードバック：問いかけ】

| 133P：あ、かん、普通に使//う一 【答え】

| 134Q： うん 【相づち・了解】

| 135P：タオルじゃなく//て一 【ことば探し】

| 136Q： うん、布巾 【repair：探されていたことばの提示】

| 137P：うん、あの一//台所で使う一 【ことば探し】

| 138Q： ん？ 【ネガティブ・フィードバック：明確化要求（漠然）】

| 139Q：=うん 【相づち・了解】

└ 140P：タオル 【135Pの部分的なくり返し】

141Q：うん

142P：とかは一 (黒沼1)

「なんか、あの一」(129P)や「う一、なんというか、なんか」(131P)から、Pはことばに詰まっていると推測される。Pが何を言おうとしているのか分からなかったQからの問いかけ(132Q)もなされているが、Pは、その問いに答えながらも、ことばを探し続けている。その結果、Q(136Q)によってPが言及を試みているものを指す「布巾」が提示される。この時点で、Qは、Pが言おうとしていることを理解したのであろう。けれども、数ターン後の140Pでは、135PでP自身に否定されて、Q(136Q)にも言い換えられた「タオル」が再び現れた。(2)はNNS主導・NS実行型の **repair** であったが、(1)とは異なり、**repair**の結果は、P(NNS)の発話に取り入れられていない。しかし、(1)と同様に、2度目に現れた「タオル」がQからの働きかけを受けることはなく、会話は進められていた。NNSの語法のトラブルが解消に至らなくても、NSの理解が一旦成立した後は、NSによるネガティブ・フィードバックが控えられているようである。

3-1-2 NNS が NS の発話を理解できない場合

(3)は、NNS である E が、大学に電話をかけて願書提出手続きを問い合わせている会話である。C(NS)の発話(90C)が理解できなかった E は、明確化要求(091E)を行っている。

(3)E : 中国人女性、22 歳、大学 3 年生 (日本語専攻) || C : 大学職員 (男性、年齢不明)

090C : うん、書類選考ね。

┌ 091E : はっ、せんこ。 【明確化要求 (漠然) + くり返し】

| 092C : しよ、書類選考。あなたが出した、 【repair : 090C のくり返し + 言い換え】

| 093E : うん。 【相づち】

| 094C : 成績証明書とか//卒業証明書、 【repair : 言い換え】

| 095E : うん。 うん。 【相づち】

| 096C : を、あの出願の時出してもらいますから、 【repair : 言い換え】

| 097E : うん。 【相づち】

└ 098C : それで、そういうそういう書類で選考します。 【repair : 言い換え】

099E : うん。 (林 電話会話資料 7)

091E の明確化要求は、先行する 091E の一部「せんこ」を引き取って、更に聞き返すときの表現である「はっ」が付け加えられた形になっている。上昇調イントネーションは伴われていないものの、「はっ」が現れているために、E(NNS)が C(NS)へ明確化要求を行っていることが示されている。091E を受けた 092C は、先行する自分の発話(090C)「書類選考」をくり返す。更に、E(NNS)の相づち(093E, 095E, 097E)を得て、話を続けてよいかどうかを確かめながら、「書類選考」が何であるのかを説明していた。相手の発話をくり返して行う明確化要求には、自分の聞き取りを確かめる場合と理解を確かめる場合が考えられる。091E には、2つの解釈が成立するのである。従って、明確化要求を受けた E は、自分の発話(090C)を聞き取りを確認するくり返しだけでなく、説明的な言い換えも行っていると解釈できよう。また、問い合わせの会話では、情報を要求する側と提供する側の役割分担がはっきりしている。よって、明確化要求を受けた C(NS)が、E の理解が回復されるように念を入れているとも考えられる。

3-2 日本語母語話者主導型の repair : NNS の発話を NS が理解できない場合

NS 主導型の repair には、NS が NNS の発話を理解できない場合が見られた。(4)では、友人同士で洗濯機の話をしている中で、大きな汚れを落とす方法が話題になっている。しかし、P(NNS)が「おーようごれ」と言ったところ、Q(NS)から明確化要求を受けてしまう。

(4)は、既出の(2)と同じ会話の他の箇所である(黒沼1)。

(4)P : 韓国人女性、27歳、大学の研究生、日本語上級 || Q : 日本人女性、43歳、主婦

103P : //もつとー、おぼりよ

104Q : うーん 【相づち】

105Q : うん 【相づち】

106P : おーよう

107Q : うん 【相づち】

108P : ごれ

┌ 109Q : ん? 【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (漠然)】

| 110P : ごれ 【repair : 108P のくり返し】

| 111Q : よ//ごれ? 【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (言い換え)】

| 112P : タンクの一 【repair : 新たな情報の提示】

| 113Q : よごれ 【ネガティブ・フィードバック : 言い換え】

└ 114P : よごれ 【114P のくり返し】

103P/104Q で 2 人の発話が重なってしまったが、105 Q の相づちで Q から P にターンが渡される。107Q の相づちにも促されて、106P と 108P にかけて「おぼりよ」が言い換えられて「おーようごれ」となった。けれども、次の 109Q 「ん？」で Q が repair を始めている。明確化要求(109Q)を受けた P(110P)は、自分の発話をくり返した。それを受けた Q は、自分の理解を確認するための明確化要求「よごれ？」(111Q)を行っている。正しい語形が提示されてはいるが、明確化要求となっており、P の反応が待たれているものと推測される。しかし、111Q への応答が得られなかった Q は、113Q では P の反応を問うことなく、正しい形を提示している。(4)での repair は、NNS に対して NS が明確化要求を行う NS 主導型であり、最終的に NS が NNS の発話を言い換えているので NS 実行型と分類されよう。しかし興味深いことに、(4)では、Q(NS)から P(NNS)への 3 回にわたるネガティブ・フィードバックが徐々に変化している。「ん？」(109Q)は、P が言おうとすることを P 自身のことばで表現するように求めている。「よごれ？」(111Q)では、P が言おうとしていることを Q が Q のことばで表現しているが、明確化要求となっていて P の反応が確認されている。そして、「よごれ」(113Q)は、もはや明確化要求ではない。P の反応に応じて、Q のネガティブ・フィードバックが働きかけの強いものになっていく過程が読み取れる。

ところが、NS 主導で repair が始められたが、尻すぼまりになってしまった場合も観察

された。(5)は、(2)(4)と同じく友人同士の P(NNS)と Q(NS)の会話であるが、会話録音の際の説明書が話題となった箇所である。

(5) P : 韓国人女性、27 歳、大学の研究生、日本語上級 || Q : 日本人女性、43 歳、主婦

724P : 話が。(1.5 (笑)) [あのせぜめんぜのとおり]

┌ 725Q : え? 【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (漠然)】

| 726P : あ、あのせつめーせーのー 【repair : 724P の言い換え】

| 727Q : 説明? 【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (726P の言い換え)】

| 728P : 説明 【repair : 728P のくり返し】

| 729Q : しょ!!? 【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (726P の言い換え)】

| 730P : 書いたー 【repair : 新たな情報の提示】

└ 731Q : 説明書?、うーん

【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (くり返し) + 自己注目表示 (思案中)】

732 P : 話をずっと//続けるよう//にー

733 Q : うん うん (黒沼 1)

P の不明瞭な発音「ぜぜめんぜのとおり」<説明書の通り>(724P)に対して、Q が明確化要求「えっ」(725Q)を行っていることから repair が始まっている。それを受けた P(726P)が自分の発話を言い換える。しかし、Q(727Q)が更に言い換えて、Q の理解を確認する明確化要求を行っている。その結果、P(728P)は 727Q をくり返して、Q の理解を確認したものと推測される。会話の流れを見てみると、P の発音は、724P→726P→728P と徐々に正しい形に近付いている。けれども、729Q と 731Q の明確化要求には、P からの返答がなされていない。Q の問い(731Q)には、P から「説明書」という語を引き出す目的があったのではないだろうか。しかし、既出の(4)とは異なり、Q は敢えて会話の流れをとどめて、P の発話を言い換えることはなかった。

ところで、一つの大きな repair の中に小さな repair が入れ子式に組み込まれている場合も観察された。(6)は、E(NNS)と S(NS)の友人同士の電話でのおしゃべりである。223S で、S が共通の友人である「キュウ」に電話したのかどうかを、S が E に聞いている。しかし、会話の流れを見てみると、E は、S が「キュウ」に電話をしたと理解したらしく、その「電話」で話したことについて S に尋ねてきた。

(6)E : ブラジル人男性、24 歳、日本語中級 || S : 日本人女性、20 代 (Ruth 6)

223 S ね、もしかしてキュウにさー電話した?

- └ 224 E キュウにさー? 【明確化要求(くり返し)】
- | 225 S キューウ? 【フィードバック: E の理解の確認(くり返し)】
- | 226 E あ、そう。 【了解・相づち】
- └ 227 S ね。 【相づち】
- 228 E きょう?//電話した?
- 229 S ううんきょうじゃない。きょうおう?
- 230 E 電話したくれる?
- └ 231 S へ? 【ネガティブ・フィードバック: 明確化要求(漠然)】
- | 232 E あなたはキューの電話したくれる? 【230E のくり返し】
- | └ 233 S あっ、ケンの電話知らない。 【答え】
- | └ 234 E ehh、ん、じゃなくて//キュー電話した//?
- | 【S の理解の否定+232E の言い換え】
- | 235 S え? キュ、キューウ?
- | 【ネガティブ・フィードバック: 明確化要求(漠然)+明確化要求(言い換え)】
- | 236 E なにを話した//?分からない。 【234E の言い換え】
- | 237 S あ 【自己注目表示(気づき)】
- | 238 S あ、なんかね、キュー//に、電話した? 【223S のくり返し】
- | 239 E うん 【223S への答え】
- | 240 E え?ぼく? 【明確化要求(漠然)+明確化要求(省略箇所)の補充】
- └ 241 S うん、あのヨーロッパに行った時に//一行く時に電話した?
- 【肯定+238S の言い換え】

224E-226E で、最初の repair が行われている。続いて 226E/227S で相づちが交換されていることから、E(NNS)と S(NS)の理解が共有されたと両者共に判断したものと推測される。ところが、その後、S が「キュウ」に電話をしたと理解した E は、S が電話で話した内容を E に尋ねてくる。230E が文法的な誤用であっただけでなく、230E の時点で会話の文脈についての 2 人の理解が食い違っていたために、S は 230E を理解できなかった。そして、S が E に明確化要求(「へ?」)(231S)を行っていることで、S(NS)主導の repair が再び始まっている。

S は、E の応答(232E)を自分なりに理解して応答するが(233S)、その理解は E に否定されてしまう(234E)。(233S/234E は、230E/237S の repair の中に、入れ子式に組み込まれ

た NNS 主導・実行型の小さな repair である。) S の明確化要求は続くが(「え? キュ、キューウ?」(235S))、理解できないでいる S に対して、E は自分の発話を言い換えていく(232E, 234E, 236E)。最終的には、E は S が「キュウ」に電話をしたのだと思っていることを S が理解できたようである(237S)。そして、S(238S)が大きな repair の起点となった 223S をくり返した結果、E(NNS)の誤解が修復されている。

(6)で興味深いのは、相互理解を回復するために E(NNS)と S(NS)のそれぞれが行った発話には、働きかけの度合いの違いが見られるという点である。元々 S の発話(223S)が、S の期待通り E に理解されなかったことから、230E-237S のやり取りが起こってしまった。けれども、E の理解を回復するために S が行った発話(238S)は、誤解された発話(223S)のくり返しにとどまっており、特に新たな情報は付け加えられていない。E(NNS)への明確化要求「へ?」「え? キュ、キューウ?」(231S, 235S)でも、疑問点が明示されていない。S(NS)は、E の理解が回復したところで、ようやく自分の発話(238S)を言い換えている。ところが、S の理解を回復しようとした E は、S の明確化要求に対応しながら、自分の発話を次々と言い換えていく。E(NS)・S(NNS)共に相互理解の回復を目指して働きかけているが、その度合いは S の方が強いと言えるのではないだろうか。

では、問い合わせの会話において、NS が NNS に明確化を要求する場合には、どのような発話が行われているのであろうか。(7)では、K(NNS)が大学に電話をかけて、入試願書について尋ねている場面である。

(7)K : 中国人男性、21 歳、大学 2 年生 || J : 大学職員 (男性、年齢不明)

13 K : 願書がほしいー。

14 J : だい、うん、大学院かマスター。

15 K : 大学院マスター、(沈黙)か、かいしょ、かいしょ、はい、はい、
はいひ、はいふ、してますか。

┌ 16 J : もしもし。 【呼びかけ】

| 17 K : もしもし。 【応答・くり返し】

| 18 J : わからないですけど。 【ネガティブ・フィードバック : 理解不可能の明示】

| 19 K : わからないですけど。(吸気) うん。しゃかい研究科のかいしゅが。

| ほしい。わか//る? 【くり返し+了解+15K の言い換え+相手の理解の確認】

| 20 J : 募集要項。 【フィードバック : 19K の部分的な言い換え・訂正】

└ 21 K : うん、うん、ようこ。 【了解+20J の部分的なくり返し】

22 J : あの一、(沈黙) えーと、きのうで願書がしめきりました。

23 K : しめきり、お、お。 (林 電話会話資料 11)

電話での会話を開始するときの表現である「もしもし」が、16J に現れている。既に会話が始まっているにもかかわらず、JがKに呼びかけたのは、改めてJの注意を要求して、Kを会話者としてJに向き直らせるためであったのではないだろうか。そして、Kの応答(17K)を得た後に、J(NS)は、Kの発話が理解できなかったことを明示的に告げている。18J「わからないですけど」を受けて、K(19K)は、自分の発話(15K)を言い換えた。更に、Jが理解したかどうかを明示的に確認している。続いて、J(20J)が19Kを言い換えるが、Jの理解の正しさをKに対して確かめておらず、20Jは明確化要求というよりも訂正に近い。友人同士のおしゃべり((6))とは異なって、徐々にNSがNNSに働きかけを強めていくような展開にはならず、NSの理解不可能状態がいきなり明示的に述べられた。加えて20Jで言い換えがなされて、Jの反応を求めるような明確化要求にもなっていなかった。

しかしながら、友人同士のおしゃべりでも、NNSが用いた不適切な表現をNSが明示的に訂正する場合も観察された。(8)は洗濯物に関する話の続きであるが、P(NNS)の「煮込む」という表現が問題となっている。(8)は、既出の(2)(4)(5)と同じ会話の他の箇所である。

(8) P : 韓国人女性、27歳、大学の研究生、日本語上級 || Q : 日本人女性、43歳、主婦

155 P : きれいに、洗うため//にー

156 Q : うーん

┌ 157 P : なんか、煮込むと 【ことば探しの開始】

| 158 P・Q : 〈笑〉

| 159 P : 煮込むというか 【ことば探し (157Pのくり返し)】

| 160 Q : 煮込んだじゃだめだよ

| 【ネガティブ・フィードバック : 159Pの不適切さの明示】

| 161 P : 煮込むんですけど 【159Pのくり返し】

| 162 Q : 煮込むのー? 【ネガティブ・フィードバック : 明確化要求 (くり返し)】

| 163 P : ええ 【答え】

| 164 Q : へえ 【相づち】

| 165 P : ガスで 【新たな情報の提示】

| 166 Q : あー、(1.0) 煮沸? 【自己注目表示 (気づき) + 明確化要求 (言い換え)】

| 167 P : 煮沸 【166Qのくり返し】

| 168 Q : =煮沸っていうのよ、それ 【フィードバック：くり返し・明示的な訂正】

| 169 P : あ 【自己注目表示（気づき）】

| 170 Q : あの、お湯沸騰させてそん中に、煮るんだよね？ 【Qの理解の確認】

└ 171 P : ええ 【了解】

洗濯物を「煮込む」(159P)ということは不適切だと感じた Q が、「煮込んじゃだめだよね」(160Q)と言って repair を始めている。「煮込む」という語の意味と洗濯物とが噛み合わない S が感じたために、Q が明確化要求を行ったものと思われる。162Q は、161P をくり返した明確化要求となっているが、P から新たな情報は得られなかった。166Q になってから、Q は P が言おうとしていることを言い換えて明確化要求をしている。更に 167P で、161P 「煮込む」を「っていうのよ」という表現を添えて明示的に訂正している。(8)では、P(NNS)からの働きかけは、「煮込む」という語のくり返しや煮込む方法の説明(165P「ガスで」)、Q の発話のくり返し(167P)にとどまっていた。けれども、Q(NNS)は逆に、くり返している明確化要求(162Q)、言い換えている明確化要求(166Q)、明示的な訂正(168Q)と徐々に働きかけを強めている。

4 repair における NS の発話 : NNS に働きかける度合い

NNS の言語行動に起こったトラブルに端を発して repair が行われる場合、NS によるフィードバックがどのような形式を取るかによって、NS が NNS に働きかける度合いには相違が生まれる。働きかけの度合いは、NNS が言おうとしていることを、NS が NS のことばで表現している度合いとして測ることができる。

NNS がことばに詰まって、自分の言いたいことを表現するための形式を探し始めている NNS 主導型では、NNS の注意は自らの発話に向いている。そして、NNS がことばに詰まっていることが NNS の言語行動を通して示されているので、NS としては求められている表現形式を提示すればよいことになる。今回分析対象としたデータには、求められている形式を単に提示するケース(データ(2))と、自分の言い換えの正しさを確認した後に、メタ言語的なフィードバック(「っていうのよ」)を行うケース(データ(8))があった。データ(2)では、NS が NNS の言おうとしていることを理解できたものと推測されるが、NS のフィードバックは NNS の発話に取り入れられなかった。しかし、データ(8)では、NNS の反応に応じて NS からの働きかけが強められた結果、NNS の発話に NS が提示した表現形式が取り入れられている。

また、NNS が NS の発話を理解できないことを自覚して、NS に働きかけてくる場合（データ(3)）には、NS が先行する自分の発話のくり返しや言い換えを行っている。データ(3)の場合では、NS は一度に言い換えやくり返しをしているのではなく、NNS の相づちを得て話を続けてよいかどうかを確かめながら説明を続けている。

ところで、NNS の発話が終わって NS にターンが回ってきたが、NNS の発話に対して NS がトラブルを認めたときは、NS が NNS に働きかけて注意を促す必要がある。NS が **repair** を始めている発話は、NNS に対する明確化要求となっていた（データ(1)(4)(5)(6)(7)(8)）。けれども、一つの明確化要求が一つの対応を得て終了するという単純な構造は観察されなかった。NS の明確化要求に対する NNS の対応が、NS にとって十分に明確ではないときには、NNS への明確化要求が再びなされている。そのような場合には、NS が NNS に働きかける度合いが徐々に強くなっていく。まず初めに現れている「ん？」「え？」のような漠然とした明確化要求では、NS にとっての疑問点が示されていない。次いで NNS の発話をくり返ししている明確化要求では、NS が自分の聞き取りや理解を確認している。そして、NS が言い換えて NNS の反応を確認する場合には、NNS の言おうとしていることを NS が表現しているので、NNS への働きかけはより強くなる。また、漠然とした明確化要求に答えるためには、NNS 自身による表現が必要になるが、NS の理解を確認する明確化要求に対しては、NNS は正否を示すだけでよい。NS からの働きかけが強まるということは、NNS が NS の発話に寄りかかる度合いが高くなり、NS からの明確化要求が、NNS にとって答えやすいものになっていくことでもある。

5 終わりに：今後の課題

教室を離れていても、NNS の発話産出・理解にトラブルが認められた場合には、NS はそのトラブルを見逃さずにフィードバックを与えていた。けれども、実際の NS/NNS 間の自然な会話において、相互作用による **repair** は、様々な展開を見せている。一つのターン内でも、NNS の発話に NS の発話がかぶさって進行中の発話に影響を与えることもある（データ(1)(6)）（深澤、1997）。一つの **repair** の中で、複数の **repair** が組み合わせられた形で現れているケースも観察された（データ(6)）。また、**repair** を開始する明確化要求や **repair** を行っている発話の形式を分析して、NNS と NS それぞれが働きかけている度合いを検討していくことも重要であると思われる。どのようなトラブルが起こっているかによっても、働きかけの度合いは変わってくると推測される。

一方で、問い合わせの会話のように役割分担がはっきりしている会話の方が、友人同士のおしゃべりに比べて、NNSからの働きかけもNSからの働きかけも度合いが高くなっている。NSとNNSがどのような社会関係にあるかという点も、フェイスワークとして、フィードバックのなされ方に影響を与えているのではないだろうか。

そして、同じ会話の中で、NNSの発話産出に同じ間違いが見られても、最初の間違いはrepairの起点とされても、2回目の間違いはNSに取り上げられずに会話がそのまま進んでいるケースがあった(データ(1)(2))。反対に、NNSへのフィードバックが、NNSの反応に応じて働きかけの弱い形から強い形へと変わっていくケースもあった(データ(4)(8))。この場合には、結果としてNNSがNSのフィードバックを取り入れている。NSのフィードバックを受けたNNSの発話産出のトラブルが、一遍で解決されるとは限らない。NSとの発話交換を通して、徐々にNNSの発音が正しい形になっていくケースもある(データ(5))。NSからNNSへフィードバックが与えられていく過程で、どのように発話が受け継がれたり、引き継がれたりしていくのかを明らかにしていくことも今後の課題である。

参考文献

- 永山友子 (1995) 「対母語話者の repair と対外国人話者の repair との比較分析 —電話での問い合わせにおける会話を中心に—」 『筑波応用言語学研究』2 pp.51-64
- 永山友子 (1996) 「日本語教科書の会話例と日本語母語話者の実際の会話との比較 —音声言語による repair の相互作用の観点から—」 『日本語教育』90 pp.1-12.
- 深澤のぞみ (1997) 「会話への積極関与としての割り込み発話 —異文化間コミュニケーションの会話分析—」 『社会環境研究』(金沢大学大学院社会環境科学研究科)2 pp.131-139.
- 町田延代 (1996) 「日本語学習者同士の会話におけるネガティブ・フィードバック会話の相手の言語能力とタスクが与える影響」 『平成8年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp.244-249.
- Coulthard, M. (1985) *An Introduction to Discourse Analysis* New edition. London: Longman.
- Oliver, R. (1995) "Negative feedback in child ns-nns conversation" *Studies in Second Language Acquisition* 17 pp.459-481.
- Tracy, K. (1990) "The many faces of facework" In Giles, H. and Robinson, W. P. (eds.) *The Handbook of Language and Social Psychology* Chichester, UK: Wiley.

注

¹ "face"の訳語として、「体面」、「面目」、「面子」などが挙げられるが、本稿では「フェイス」で統一する。また、"facework"は「フェイスワーク」と訳す。